福生市立福生第六小学校　　NO.６１７　　令和６年６月３日

校報かめのこ

か　考える子
め　めげない子
の　伸びる子
こ　心豊かな子

福生六小ホームページ　http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/

「生成ＡＩ」について考える

福生市立福生第六小学校
副校長　　岡野　厚実

昨年度、東京都教育委員会のホームページで「都立学校の教員が生成ＡＩについて学びました」という記事を目にしました。東京都主催の「生成ＡＩ研修」で、大学の先生を講師にお招きし、生成ＡＩ利用リテラシーや効果的な活用法を学ぶため、教員約 140 名が参加したという内容です。近年、生成ＡＩが急速に広まり、教育の中で生成ＡＩをどのように扱えばよいかが課題となっています。

私自身、生成ＡＩは未知の領域です。使ってみないことには何も分からないので、まずは今回の巻頭言を書くにあたり、生成ＡＩを使ってみることにしました。６月は、いじめ等について考えるふれあい月間です。ふれあい月間の内容について、生成ＡＩが作成した文章を一部抜粋して掲載します。

“学校生活において、一番大切なのは、皆が笑顔で安心して過ごせることです。しかし、残念ながらいじめという問題が時折発生します。私たちは、この問題に真剣に向き合い、解決に向けて取り組んでいます。”

“いじめは、児童たちの心に大きな影響を与えることがあります。そのため、私たちは児童たちが安心して学び、成長できるよう、いじめの予防と対処に努めています。児童たちには、いじめが許されないこと、そしていじめを見過ごさず、大人に相談することの重要性を教えています。”

“いじめは誰もが被害者となる可能性があります。児童の皆さん、もしいじめを見聞きしたり、自分自身がいじめに巻き込まれたりした場合は、どんなことでも遠慮なく大人に相談してください。私たちは皆さんをサポートし、問題解決に向けて全力で取り組みます。”

いかがでしょうか。生成ＡＩは、上記の文章を瞬時に作成しました。驚きとともに、短時間で文章が完成し、便利であるという印象をもちました。原案を作成する段階では、生成ＡＩが作成した文章は参考になるかもしれません。ただ、「それなり」の文章です。私が伝えたい内容をすべて伝えられた感はありません。「誰に」「何を」「どのような書き方で」伝えるかは、やはり人の仕事となるのでしょう。文部科学省の「初等中等教育段階における生成ＡＩの利用に関する暫定的ガイドライン（令和５年７月）」の中でも、「最後は自分で判断するという基本姿勢が必要」、「一定の知識や自分なりの問題意識とともに、真偽を判断する能力が必要」と、生成ＡＩを適切に利用するための留意点が挙げられています。

10 年後は、生成ＡＩが当然のように使われている時代になっていると想像できます。今の小学生が大人になったとき、生成ＡＩを適切に利用できるようにするために、学校や家庭で情報モラルを教えるとともに、子どもたちには一定の知識をもって文章を読むことができて、なおかつ「真偽を判断する能力」を身に付けさせていきたいものです。

※ふれあい月間については、改めて裏面にて紹介いたします。